

実家庭配付

思いやり通信



仙台市立黒松小学校

令和5年1月11日

第8号

2023年の幕開けです。

新年明けましておめでとうございます。冬休み中、子供たちはどのように過ごしていたでしょうか？ 私が子供の頃、冬休みといえばクリスマスのケーキやプレゼントが楽しみだったり、年末年始のテレビ番組が楽しみだったり、久しぶりに親戚と会えるの（とお年玉）が楽しみだったりしていたのですが、その前に大掃除というやっかいな課題を片付ける必要がありました。

私は姉が結婚するまで自分の部屋がなかったので、自分の持ち物は少ない方だったと思うのですが、どうにもこうにも家族全員で仏壇やら神棚やら、挙げ句の果てには寒空の下、金魚の水槽まできれいに掃除するので、うんざりした気持ちで大掃除の日を迎えていました。しかし不思議なもので、始める前は確かにイヤイヤなのですが、始めてしまうと、ふすまに空いた（自分が空けしまった）穴や、普段だったら気にしないような玄関の隅っこの汚れまで気になり始め、いつの間にか時を忘れて一生懸命になっていました。今思えば家族みんなで協力して何かに取り組んでいることが楽しかったのかもしれない。

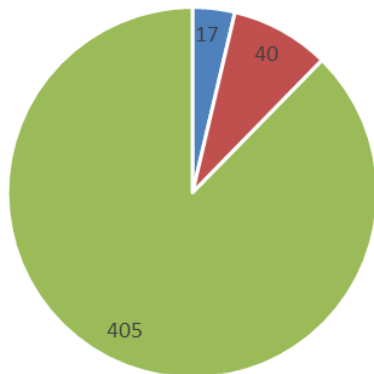
さて、今年も冬休み中の図書室で、皆さんに紹介したい本に出会いました。ユニークなストーリー展開ながらも大切なことが学べるその名も『学校では教えてくれない大切なこと』です。シリーズ第1巻は『整理整頓』です。日々の片付けを意識することで、人生を豊かにする「三つの力」について楽しく理解することができます。この本に感化され、私は自宅のウォッシュレットを交換してから毎日欠かさずトイレ磨きをしています。掃除をすることで本当に私の人生が豊かになるのかどうか、まだ実験の最中なのですが、家族からの評判がほんの少しだけ上がるという良い事がありました。今は、いつどんなきっかけで自分が止めてしまうのか、それとも毎朝のトイレ清掃を最後の最後までちゃんと続けていけるのかが気になり始めています。



いじめ防止対策担当として児童の皆さんにぜひ読んでもらいたいのは、シリーズ第6巻、第11巻の『友達関係』です。意外と自分は自分自身の事を理解していなかったり、自分の感情をコントロールできていなかったりする。自分と違う価値観を持つ人々と関わることで自分を理解することができ、自分を理解することで価値観が違う人とも分かり合えるようになり、分かり合えるようになると人生が楽しくなる、ということが理解できます。頭で理解できても心はそう簡単にコントロールできるものではないのが人生ですが、逆に人と分かり合おうとしないのは自分の人生が楽しくなくなってしまふという事は理解できます。いじめ防止対策担当として子供たちから話を聞いた際には、この本から学んだことを励ましの言葉に代えて伝えていこうと思います。

仙台市いじめ実態把握調査

4月からいじめられたことはありますか



- 今もいじめられている 17人
- いじめられたが今はいじめられていない 40人
- 今年度はいじめられていない 405人

左のグラフは11月に実施した仙台市いじめ実態把握調査の黒松小の結果です。「4月から調査実施日（11月1日）までにいじめられたことがある」と答えたのは**462人中57人（12.3%）**でした。

ただし、「今回の調査では「ない」に○を付けたけれども、友達との関わりで嫌な気持ちになったことはある。けれど今は解決して仲直りできているし、今さらその時のことで話を聞かれたりする方が嫌な気持ちになるから、このアンケートで「あった」に○はしていない。嫌な気持ちになることはあるけどトラブルの全部が、いじめとは思っていない。」という風に振り返っている児童もいました。

この意見から私は改めて、いじめか*いじめでないかの判断が受け手の気持ちにゆだねられている*事の意味を知ることができました。今回「ある」と回答した57人の中にも、今はもう「あれはいじめじゃなかった」と思っている児童がいるかもしれませんし、「ない」と回答した405人の中にも、実は大人が常にアンテナを高くし、すぐに救いの手をさしのべる必要がある児童がいるかもしれません。調査結果の数値にとらわれることなく、常に私たちは子供に寄り添い、嫌な気持ちになったときの対応を共に考え、経験を成長につなげられるような学びの場を提供していきたいと思っています。